

13 ミナミツメダニの捕食性についての研究
○佐々木 健¹⁾, 皆川恵子²⁾ (¹⁾ アペックス産業株式会社,
²⁾ 一般財団法人日本環境衛生センター)

Study of predatory behavior of *Chelacaropsis moorei*. Sasaki, T. and Minagawa, K.

ツメダニ類は、家屋内の畳やカーペット内に生息し、鋭い口器により他のダニ類や小昆虫類を捕食して生活している。しかし、大量に繁殖した時など、偶発的に人を刺咬する等して痒みなどの被害を引き起こすことが知られている (大滝, 1984)。

一般の住環境に生息し、ツメダニ類の餌となるダニ類としてヒョウヒダニ類、小昆虫類としてチャタテムシ類が挙げられるが、このどちらを好適な餌としているか、また、一日あたりのそれぞれの捕食数は知られていない。

今回、これらを確認するために試験を行ったので報告する。試験はホールスライドガラスにミナミツメダニ (*Chelacaropsis moorei* Baker) を1個体、餌としてコナヒョウヒダニの成ダニを4~8個体、または、ヒラタチャタテの幼虫を4~8個体入れ、スライドガラスで蓋をして、保存する方法で行った。

観察は餌投入から3日後まで毎日行い、顕微鏡下で餌としたダニまたはチャタテムシの死骸数を記録し、捕食数とした。

また、温度による喫食性を確認するため、25°Cと30°Cの温度条件でも調べた。